

2010高専祭来場者向け モニター実践実験結果のご紹介

概要

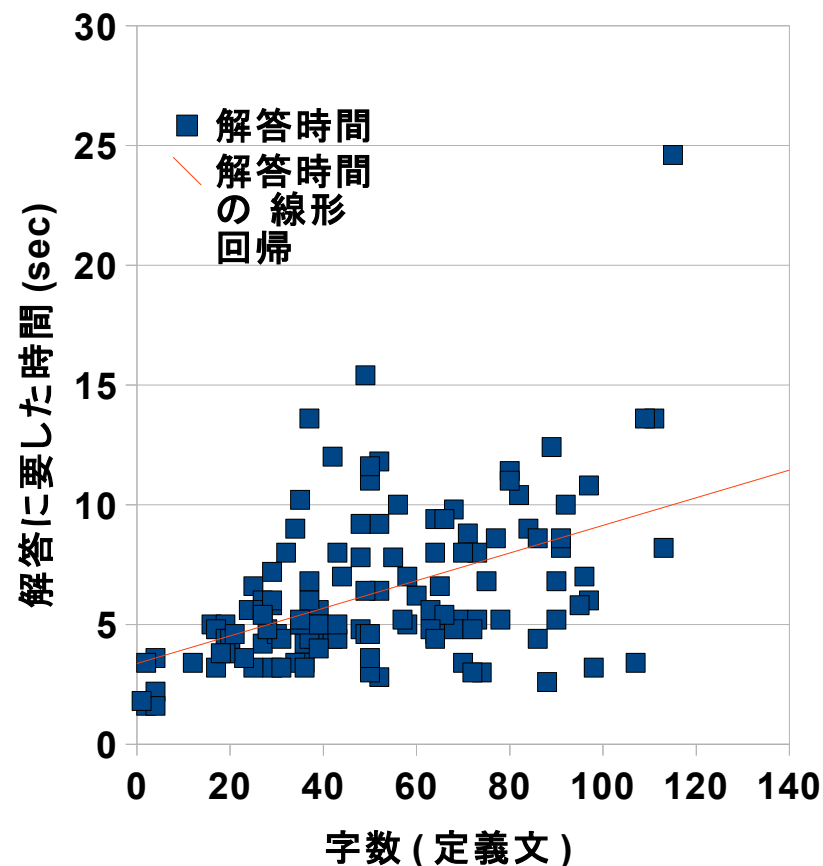
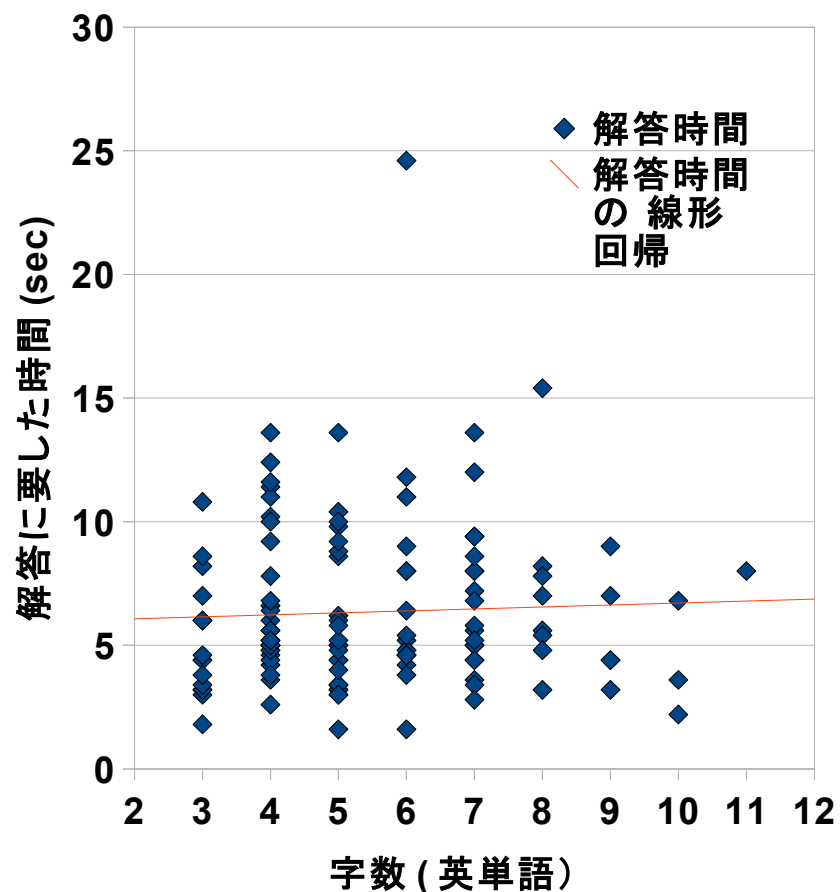
2010年10月30日(土)31日(日)両日9:00～17:00、高専祭に併せて研究室公開を行い、ご来場いただいた方々に被験者として開発中の英語教育アプリに取り組んでいただき、モニター実践実験を行いました。

被験者としてご協力いただいた方それぞれについて、出題された問題、各問題の回答に要した時間、回答の正誤をデータとして収集させていただくとともに、簡単なアンケートへの回答もお願いし、2日間で107名の方にご協力いただくことが出来ました。

本資料では、データ分析の一例として、取り急ぎ集計中の内容をご紹介します。

モニター結果、データ分析例

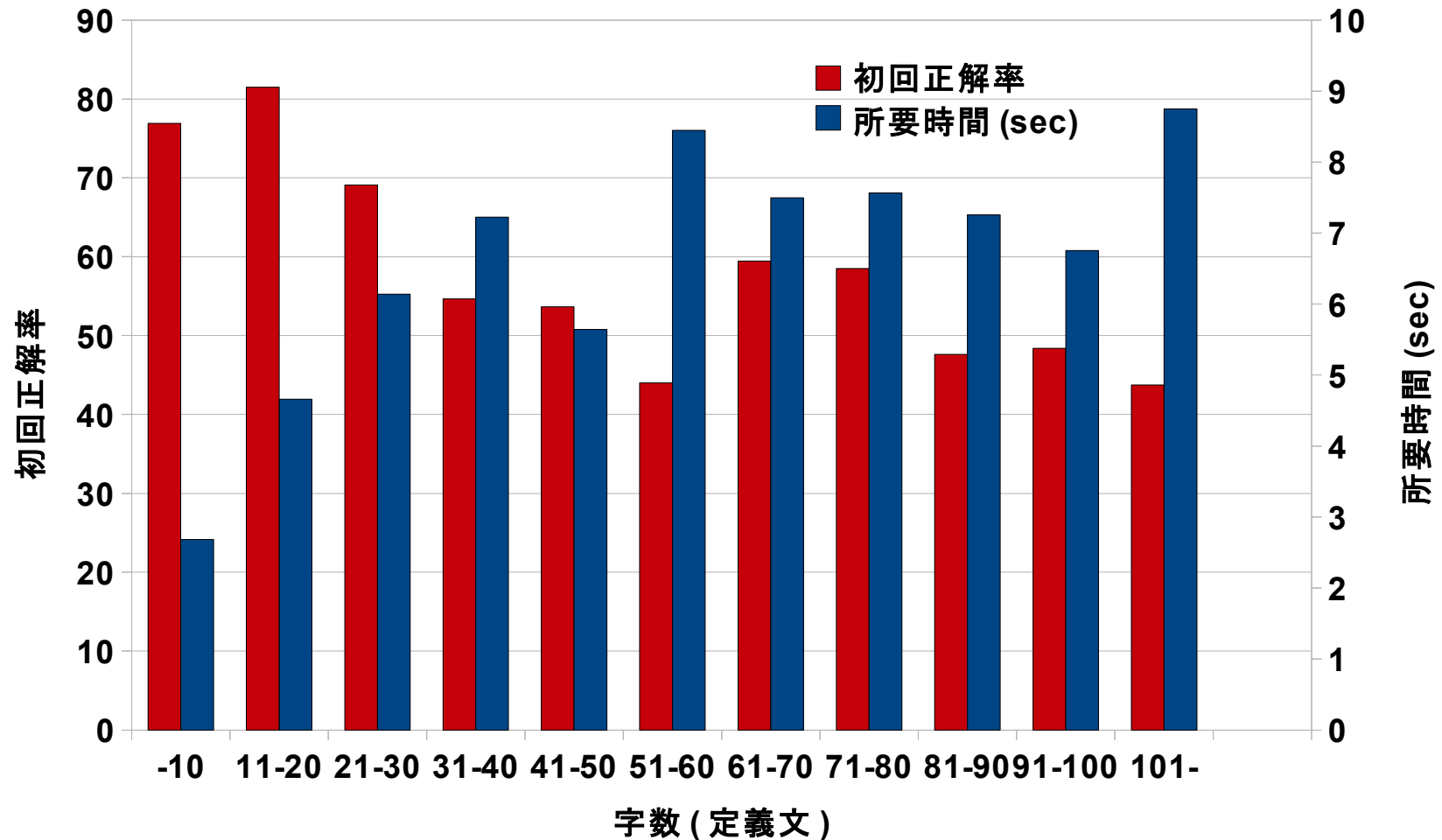
解答に要した時間は、出題された英単語の長さ(文字数)とは相関が見られないが、定義文(説明文)の長さ(文字数)とは相関が見られ、定義文が長いほど解答に要する時間が伸びており、被験者が定義文を読むのに要する時間が解答時間に影響を与えている様子が伺われる。



ご注意:本データは現在開発中のシステムの稼働テストを目的にデータ分析例として集計したものであり、あくまで仮検討の位置づけです。今後さらにシステム開発を進めながら、被験者を増やすとともに、収集データ項目もブラッシュアップし、教育工学的なデータ分析に繋げていく予定です。

モニター結果、データ分析例

定義文(説明文)の長さ(文字数)に関しては、解答に要する所要時間が長くなる傾向にあるだけでなく、初回(1回目のボタン押し)で正解を選択できる正解率も減少する傾向が見られ、定義文が長いほど正しい判断が瞬時に得難くなっている様子が伺われる。



ご注意:本データは現在開発中のシステムの稼働テストを目的にデータ分析例として集計したものであり、あくまで仮検討の位置づけです。今後さらにシステム開発を進めながら、被験者を増やすとともに、収集データ項目もブラッシュアップし、教育工学的なデータ分析に繋げていく予定です。

アンケート結果

本英語教育アプリについて、多くの被験者の方が、『興味深い／おもしろい』あるいは『英語力向上に効果があると思う』と解答し、体験としては好評である様子が伺われた。

